



さとのかぜ NO. 150

千葉県いすみ環境と文化のさとセンター
11月号 2007年11月1日発行

編集・発行 千葉県いすみ環境と文化のさとセンター
〒298-0111 千葉県いすみ市万木 2050 番地
TEL 0470-86-5251 FAX 0470-86-5252

URL <http://www.isumi-sato.com/>

竹を生涯の友として



<『竹かご教室』より>

◇竹を生涯の友として生きたい

「竹かご教室」の受講者の一人で、今年で4回目というこの方は、常に謙虚な姿勢で竹かごづくりに臨み、美しい作品をいくつも仕上げました。講座最後の日の感想で「私は、竹を生涯の友として生きたい。」と言われました。竹に対する思いがズシンと心に響き、感動しました。

10月のセンター行事

・『竹かご教室』（6日、7日、13日、14日）（全5回）

・『芋掘りをしよう』（21日）

《『竹かご教室』》

◇まず、見て、やってみて、再び見て体得の世界

技術の習得には、王道はないようです。かつては、ものづくりにおける技術の習得は、見習いであったようで、いちいち師匠に聞いて覚えていくのではなく、師匠の作業の様子を逐一観察して技を習得していたようです。

教えてくれるのを待っているのではなく、自ら積極的に師匠から技を盗むものだとか聞かされたのです。竹かごづくりでは、ひごの製作が基本ですが、最終的には、指先の感覚によって厚さの調整をしていくようです。ものを言わない指先からその説明を聞くことはできません。結局、自分で体験を通して体得するしかないようです。とかく、マニュアルがないと何も手に付かない現代にとって、これほど厳しい世界はありません。



◇筏底箆（いかだぞこざる）をつくる

例年は週1回のペースで、5週間にわたって実施してきましたが、今年は、週2回（土、日）連続の日を2回計画しました。それは、続けて実施することで、技の習得がしやすいのではないかとということと、前日に作成した「ひご」が乾燥しきらないうちに編むことができることなどです。今年もこの講座への希望者は大変に多く、キャンセル待ちの人がたくさん出てしまいました。参加者の約半数は女性で、中には若い方でここ何年か連続して参加し、かなり習熟しておられる方もいます。講師は、茂原市在住の河野衛氏です。

さて、第2回目からは、四つ目編みの「筏底箆（いかだぞこざる）」の製作にかかりました。サイズは、外径24cm、深さ約8cm、取っ手の弦を付けたものです。底は、その名前のとおり、長さ14cm、幅15mm、厚さ1mmの伸子を6枚入れて、隙間がないように筏底したものです。



製作過程は、およそ次のとおりです。

◇ [タテ（芯）とヒゴ（編み竹）] づくり

目箆（めざる）

タテ（芯）は、幅7mm、長さ50cm、厚さ1mmの皮竹と肉竹のものを合わせて14本、ヒゴ（編み竹）は、幅3mm、長さ150cm、厚さ1mmの皮竹3本と肉竹3本、底に使う伸子（上記の通り）を用意します。その他に、縁づくりになると、内縁（幅1.5cm、長さ75cm、厚さ3～4mm）1本と外縁（幅1cm、長さ85cm、厚さ1mm）1本、縁巻き（幅1.5cm、長さ

250 cm、厚さ0.5 mm) 1本をそれぞれ用意します。ただし、縁づくりの材料は、底編みと胴編みが済んでから作成してもよいのです(乾燥を避けるため)。取っ手もその時に。

◇底編みから胴編みへ

底編みは、最初底の下面を上に向けて編みます。タテ芯になるヒゴを1.5 cm間隔に7本縦に並べて、手前の部分を膝で押さえます。次にタテ芯の1本を横に編み込みます。ついで、伸子を1本並べて左端と右端がタテ芯の下になるように編み込みます。その後、タテ芯、伸子と交互に、それぞれ7本と6本を隙間のないように編み込みます(右の写真参照)。こうして底の部分ができ上がります。続いて、皮竹のヒゴ(編み竹)を用意して、底の部分を固定するとともに、立ち上がる(腰上げ)部分を編みます。次は、胴編みです。今度は、底の下面を下にして、ヒゴ(肉竹または皮竹)を用いて隙間無く、予定した深さ(8 cm)になるまで編み上げていきます。これで、胴編みは終了です。ここまでくると、箆らしくなってきます。



筏底箆(いかだぞこざる)

◇縁づくりと取っ手の取り付け(完成)

胴の部分からはみだしているタテ芯を約8 cmくらい残して切り揃えます。そして、これらの先端を始末しやすくするために、すべて2つに割いておきます。このタテ芯を内側に折り曲げて、右隣のタテ芯の内側を通して、さらにその右隣のタテ芯の外側へと出して固定します。同様にしてすべてのタテ芯の始末をします。次に、箆の縁を強化し、縁を美しく整えるために、内縁と外縁を当て、縁巻きのヒゴを用いて、タテ芯の一つ置きに通して巻いて仕上げます。そして、最後に取っ手を取り付けて完成です。参加者たちは、竹かごづくりが楽しくなったとか、生涯の友としたいなどの感想が話されました。(渡邊美利)

《『芋掘りをしよう』》

◇サツマイモ生産量全国第3位の千葉県

千葉県は、サツマイモの生産量が全国第3位です。千葉県でサツマイモと言えば、江戸時代の青木昆陽(あおきこんよう)か佐藤信淵(さとうのぶひろ)などが有名ですが、現在は成田市大栄町の誇るサツマイモ、大栄愛娘(たいえいまなむすめ)が有名です。当センターでは、ベニアズマの苗を5月に生態園の畑に植え付けました。5か月余り経過の中、天候にも恵まれ、スクスクと生長し、10月21日に収穫となりました。茎や葉の部分を取り除いてか親子連れの参加者による芋掘りが行われました。右の写真のようにたくさんの収穫があり、焼き芋にして食べた後、御土産を手で大満足の帰宅でした。(渡邊美利)



和泉-日在浦だより 秋深まる (11/1)



コスモス(日在 10/17)

[残暑の影響]

今夏は記録的な猛暑でしたが、秋に入っても残暑の影響が見られました。例年8~9月に最盛期を迎えるコスモスは猛暑に痛めつけられ、やっと花が咲いたのは10月に入ってからでした。山茶花や菊は10月中旬以降漸く咲き始めました。周年花をつける匍匐型ガザニアは、暑中に引き続き今も道端で元気に咲き続けています。セイタカアワダチソウまでが一斉に繁茂し空地を黄色く染めています。

[クスサンが避難に飛来]

クスサン (楠蚕、学名 *Saturnia japonica* (Moore 1872)) は、チョウ目・ヤマユガ科の蛾の一種で、幼虫は青白色の大型の毛虫で、楠、クヌギ、コナラなどの葉を食べて成長します。繭から羽化した成虫は口が退化し食物をとることもなく、産卵すると死んでしまいます。10月中旬南からの強風を避け、家の傍にある生垣のヤブツバキの枝に羽の開長14cmのクスサン(メス)が避難していましたが、翌朝風が止むと飛び去っていました。この成虫が交尾し産卵すれば、越冬した卵から来年4-5月頃には幼虫が生まれることでしょう。



クスサン(日在 10/17)

[ウミガメは5ヶ所孵化、孵化待ち1ヶ所]

今年当地のアカウミガメは上陸8ヶ所、

産卵6ヶ所で、うち5ヶ所で孵化し子ガメが無事旅立ちました。6番目産卵巣(8月26日、和泉浦)は、9号台風と20号台風で共に冠水しましたが産卵巣は流出せずに無事でした。



ウミガメ産卵巣を守る市職員(10/29)

しかし、9月下旬以降沿岸流が冬型(北から南へ)に変わって砂浜の侵食が進み、満潮時に度々産卵巣の冠水が観察されています。産卵後約70日経過しても子ガメの脱出が見られず心配されているところです。

20号台風通過後の秋晴れには、市水産班の職員と「カレッタいすみ」のメンバーが、5センチ程の小さな子ガメの旅立ちに障害となる海岸に堆積した漂着流竹木を撤去し、この最後の産卵巣前の砂浜をレーキで均し

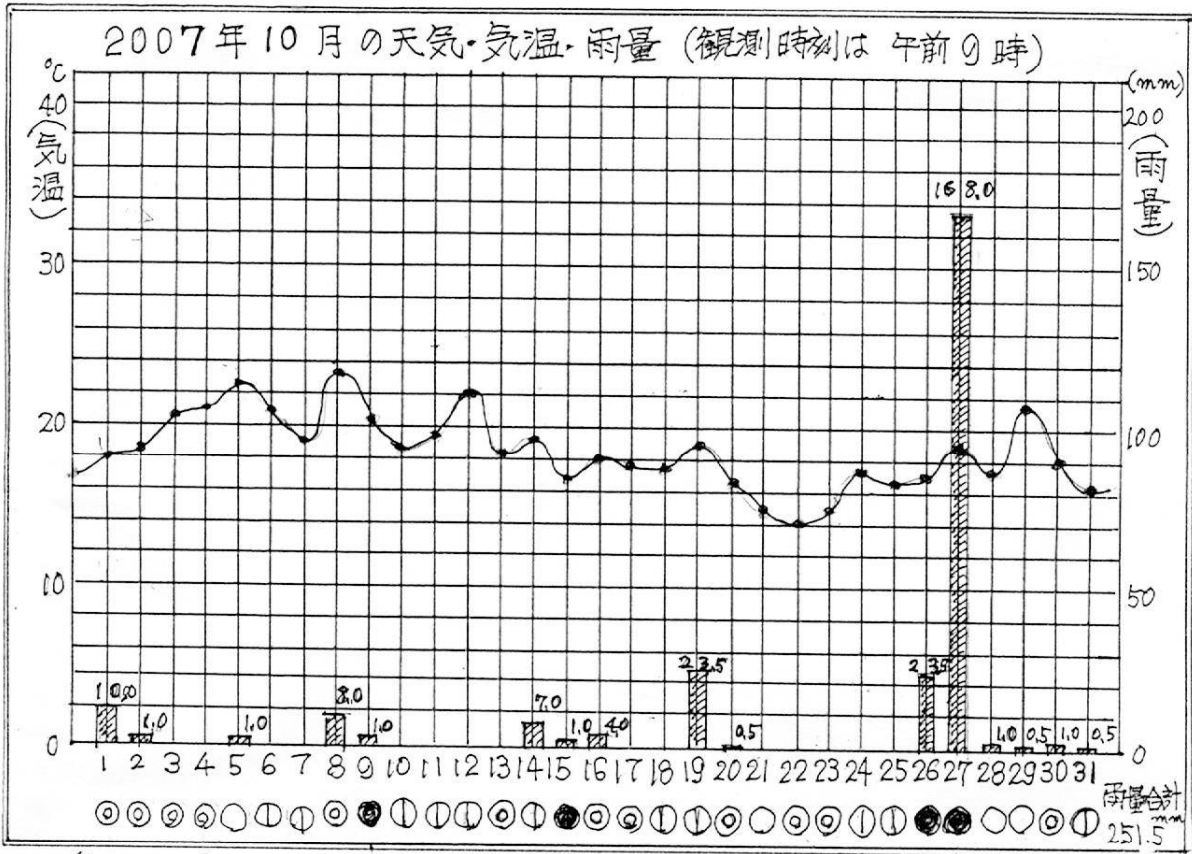
ています。

[森谷 洵 (もりや ふかし)]

◎今、いすみでは???

10月は、雨の降った日数が多かったような気がしたので調べてみました。すると、9時の観測時に雨の降っていた日数は、わずかに4日であるが、雨量計で0.5 mm以上が記録されている日数は表にもある通り、「16日」で、降水量は合計251.5 mmでした。これを昨年と比較してみると、昨年(2006年)は、9時に雨と記録されていたのが、「7日」で、0.5 mm以上の降水日が「12日」、降水量が「231.0 mm」で、一昨年(2005年)は、9時が「10日」、降水日が「19日」、降水量が「186.0 mm」でした。これを見ると、『特に、今年の10月が雨の降った日数が多かった』とは言えないことがわかりました。これも例年とは、異なる時期に、来襲して来た台風20号のために、そう感じたのかもしれないと思いました。ここ夷隅地区では、10月の中旬になってから、1日の最高気温が、「20℃」に達しない日がようやく多くなってきています。1日の最低気温も、10℃以下の日が、まだ、「4日」しかありません。やはり、暖かい晩秋なのでしょうかね?

野外では、セイタカアワダチソウ(キク科)やススキ(イネ科)の穂が、あちこちで風にゆれ、秋深い感じを味わわせてくれています。よく見るとそれらの間や日当たりのよい所には、ゲンショウコ(フウロソウ科)、ミゾソバ(タデ科)、サクラタデ(タデ科)、アメリカセンダングサ(キク科)、カタバミ(カタバミ科)、ツユクサ(ツユクサ科)、キツネノマゴ(キツネノマゴ科)等々、今、花や実を付けています。(芝崎昌彦)



11月の行事案内

◇『わらでおきもの細工をつくり』 定員20名
日時 11月11日(日) 9:30~15:00
場所 ネイチャーセンター
参加対象 中学生以上
持ち物 工作ばさみ、座布団、寒くない服装
お弁当

『さとの文化祭』 自由参観
期間 11月17日(土)~25日(日)
場所 ネイチャーセンター 9:00~16:30
作品応募 お問い合わせください。
作品搬入 10/27(土)~11/4(日)まで

《12月の行事予定》

◇『つるでかごづくり』 定員20名
日時 12月2日(日) 9:30~16:00
場所 センター地区
持ち物 鎌、剪定ばさみ、軍手、長靴、山に入れる服装、お弁当

参加対象 高校生以上

◇『もちつきをしよう』 定員40名
日時 12月15日(土) 9:30~14:00
場所 センター地区(デイキャンプ場)
持ち物 寒くない服装、タオル

◇『おかざりをつくろう』 定員 輻・輻 20名
日時 12月23日(日) 午前部 9:00~12:00
午後部 13:00~16:00

場所 ネイチャーセンター
持ち物 材料費一人400円程度、工作ばさみ
座布団、寒くない服装

いすみ楊枝

—千葉県伝統的工芸品—

日時 11月18日(日) 9:30~16:30
場所 ネイチャーセンター
講師 高木 守人氏
参加料 無料(材料費実費負担)
内容 楊枝・花入れ・茶杓作り

センターでは、千葉県伝統的工芸に指定されている「いすみ楊枝」を、県内外に広く紹介するために毎月1回、高木守人氏に実演をしていただいております。次回は、12月16日(日)の予定です。

《1月の行事予告》

☆『そば打ちをしよう』 定員20名
日時 1月20日(日) 9:30~14:00
場所 つどいの家(いすみ市松丸地区)
集合 ネイチャーセンター
持ち物 材料費実費負担、割烹着、手ぬぐい、タオル、ボウル、寒くない服装

参加対象 中学生以上

◇『わらぞうりを作ろう』 定員20名
日時 1月27日(日) 9:30~16:00
参加対象 小学5年生以上
場所 ネイチャーセンター
持ち物 木ばさみ、お弁当、座布団、寒くない服装

※11月1日(木)午前9時から、1月の行事申し込みを受け付けます。

行事への参加申し込み、お問い合わせは、☎(0470-86-5251)または、直接センター事務室にお申し出ください。定員のあるものについては、定員になり次第締め切らせていただきます。あらかじめご了承ください。

*FAX可(0470-86-5252)

*eメール可(メールアドレス: info@isumi-sato.com)

*行事申し込み後、都合によりキャンセルする場合は必ずセンターまでご連絡下さい。

※「さとのかぜ」の定期購読を希望される方は、郵送料として、80円切手12枚、または、960円にて受け付けます。

◆◆◆◆ 利用案内 ◆◆◆◆

休館日: 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合はその翌日)、12月29日~翌年1月3日

開館時間: 9:00~16:30、 入館料: 無料

なお、団体で案内や解説などを希望される場合は、2週間前までにお申し込み下さい。